

特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導

—重度・重複障害の生徒の実態把握を生かした指導—

実践のポイント

○ 行動観察と発達指標の活用による多面的な実態把握

- ・ 担任による行動観察を踏まえ、発達指標を活用して複数の教師による共通の視点から実態を把握し、対象生徒の全体像（課題）を分析しました。

○ 実態把握を生かした具体的な指導目標、指導内容の設定と支援方法の工夫

- ・ 実態把握で明らかになった課題を基に、具体的な指導目標、指導内容を設定しました。
- ・ 実態把握を基に、対象生徒にとってより効果的な手立てや支援の方法を工夫し、目標を達成するための具体的な手立てとして実践しました。

事例について

- 対象生徒：自立活動を主とする教育課程・中学部3年
- 実践した授業：自立活動において、個別の指導として実施
- 実践校における自立活動（個別の指導）の位置付け：毎日1・2校時に実施

指導・支援の実際

○行動観察と発達指標の活用による多面的な実態把握

<行動観察による実態把握の主な項目>

- 健康・体調
 - ・ 視覚、聴覚などの感覚の状態
 - ・ 体調面で留意すべきこと
- 身体の動き
 - ・ 身体の緊張、拘縮の状態
 - ・ 上肢、下肢の動き（屈曲、伸展の状態、随意的な動き、左右差があるかなど）
 - ・ 姿勢による身体の動きの変化
- 情緒
 - ・ 好きなこと、苦手なこと
- コミュニケーション
 - ・ 問い掛けに対する応答の状況
 - ・ 応答の仕方（声、身体の動きなど）

<発達指標を活用した実態把握の手順>

- 「学習到達度チェックリスト（開発者：福岡大学教授・徳永豊）」を活用
 - 教科の観点を活用し、段階的かつ系統的な視点で実態をとらえるようにするために活用した。
 - ・ 学習到達度スコアの根拠となる行動を洗い出す。
 - ・ スコアをチェックし、学習の到達度を把握する。
 - ・ 行動観察から、段階・意義の発達経路における具体的発達段階をカテゴリー別に捉える。
 - ・ 次の目標となる行動を設定する。
 - ・ 次の目標となる行動を達成するための指導内及び方法を設定する。

対象生徒の全体像（できていること【基礎的課題】、できつつあること【近接課題】、できないこと及び苦手なこと【発展的課題】）の把握

- ・ 「自分－親しい人」の二項関係が成立し、対人的なやりとり遊びに注意が向きやすい段階。
- ・ 教師の働きかけに少しずつ気付く様子が見られるようになっている。
- ・ 次の活動の予測、自分からのやりとり遊びの要求といった行為はまだ見られない。
- ・ 教師とかかわりながら自分のできる動作を使って物を操作する体験を積み重ねる中で、両肘の伸展の動作をある程度随意的に行うことができるようになってきている。

○実態把握を生かした具体的な指導目標、指導内容の設定と支援方法の工夫

<全体像を受けた「願う姿」>

- ① 簡単な因果関係に気付き、次の活動（出来事や行為）を予測し、期待できるようになってほしい。
- ② 教師とのやりとりの中で、「もう一度やりたい」という要求を自分から表すことができるようになってほしい。
- ③ 物（教材や玩具）を操作したり、遊んだりする楽しさや面白さが分かり自分から関わるようになってほしい。

<単元の目標>

- ・ 教師の弛緩や身体の動きに関する働き掛けに気付き、身体の動きで応えることができる。
- ・ 教師との対人的なかかわり遊びを繰り返す中で、次の活動（出来事や行為）を予測することができる。
- ・ 「声」、「左肘の伸展」という方法でやりたい気持ちを伝えることができる。
- ・ 座位保持いすに座って、左肘を伸展することができる。

<単元を構成する活動内容>

観点	○指導内容 ・ 支援方法	○具体的な活動 ・ 授業で行った手立て
運動・動作	○教師の身体への働き掛けに身体の動きで応える。 ・力が入っている筋肉の視点と終点に触れ、弛緩を促す。	○肩周辺、足などの弛緩 ○首のコントロール
受け止め 対応	○教師とのやりとり遊びを通して、次の活動（出来事や行為）を予測する。 ・フォーマット（決まった手順による対人的な遊びの型）を設定してのやりとり遊びを行ったり、活動をパターン化したりして、次の活動を予測しやすくする。	○フォーマットを設定してのやりとり遊び（揺れ遊び、手遊び） ①左肘を伸展してスイッチに触れる。 ②スイッチに触れることでタイマーを動かしたり曲を流したりして、揺れ遊びや手遊びをする。
表現 要求	○自分からやりたい気持ちを伝える。 ・教師の言葉掛けに対する本人の自発的行為を待つ。 ・少しずつ言葉掛けのタイミングを遅らせ、本人の自発的行為が先行するようにする。	③スイッチに触れることで遊びを繰り返す。 ・遊びの始まりと終わりに教師が決まった言葉掛けをして、やりとりをしながら予測や気持ちの表出を促す。
外界の知 覚・認知	○物を操作したり、自分から物にかかわったりする。 ・教師との対人的なやりとりの中に物（教材や玩具）を取り入れる。 ・感触や音を手掛かりに触ったことが体感できる物を用意する。 ・座位保持いすを使い、いろいろな姿勢での左肘の伸展を促す。	○物を介した教師とのやりとり遊び ①左肘を伸展してスイッチに触れる。 ②タブレット端末のアプリケーションを使用し、スイッチに触れることで、画面を変化させたり効果音を鳴らしたりする。 ・教師が本人の動きに合わせて場面に沿った言葉掛けをし、応答を促す。

生徒のあらわれ

○身体の弛緩、動きを促す場面

教師が、一つ一つの部位に丁寧に触れながら言葉を掛けていくことで、自分で緊張を緩めて体を伸ばしたり、声を出して応えたりしていました。教師の言葉掛けに対して、自分で顔を動かして声が聞こえてくる方向を向こうとしたり、笑顔を見せたりする様子も見られました。教師の言葉掛けや身体への働き掛けに気付き、体を動かしやすい状態にすることができました。

○やりとり遊びの場面

揺れ遊びでは、教師の言葉掛けを聞いて笑顔で左腕を動かし、スイッチを押しました。揺れが終わると笑顔を見せ、教師が「おしまい」と言うときさらに大きく笑っていました。1回揺れた後は、少し待つことでまた自分で左腕を動かしていました。活動の終わりが分かって教師の言葉掛けを期待したり、繰り返し左腕を動かして自分からスイッチを押したりすることができました。